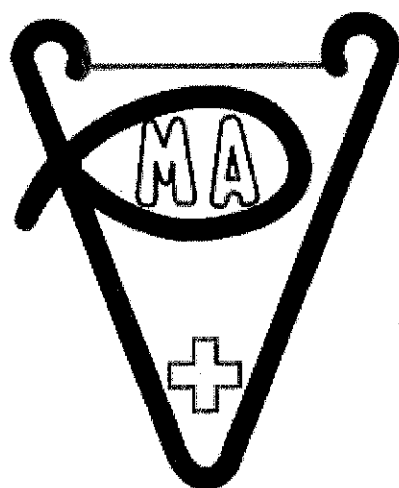


令和5年度 SYLLABUS



秋田市医師会立秋田看護学校

目 次

年次別学習行動目標

教育課程

講師名簿

専門分野Ⅰ

基礎看護学	1
看護研究概説Ⅱ	3

専門分野Ⅱ

成人看護学	4
成人看護学実習	
老年看護学	8
老年看護学実習	
小児看護学	10
小児看護学実習	
母性看護学	12
母性看護学実習	
精神看護学	15
精神看護学実習	

統合分野

在宅看護論	17
在宅看護論実習	
看護の統合と実践	20
臨床看護の実践	
看護の統合と実践	

年次別学習行動目標

3年次

1. 看護の質をよりよく発展させるための技術能力を身につける。
2. 臨地実習においては、これまで培ってきた知識・技術・態度を活用し、理論と実践の統合をはかり、看護観を確立する。
3. 専門職業人として地域社会の保健・医療・福祉に貢献できる能力を身につける。



2年次

1. 健康障害を持った対象を総合的にとらえ、看護場面に対応できる判断能力、応用能力・問題解決能力の基礎的能力を身につける。
2. 保健医療チームにおける看護の役割を認識し、チームの一員として、協力して行動する。



1年次

1. 看護の対象である人や社会を幅広く理解する。
2. さまざまな情報に関心を持ち、整理し活用する能力を学ぶ。
3. 生命の尊厳と人権擁護を理解する。
4. 疑問に思った事を検証する、科学的思考能力を身につける。
5. 人間に対する理解を深め、相手に共感し、受け入れる態度を身につける。
6. ボランティア活動を通し、積極的に社会へ貢献する精神を身につける。

教育課程(科目別單位・時間數)

[illegible]

令和 5 年度 講師名簿(3 年)

科 目 名	教科目名	単 位	時 間	講 師 名	専任・ 兼任	実務 経験 有無	時期
基礎看護学	看護研究概説Ⅱ	1	15	薄田 悦子	専任	有	前期・ 後期
看護の統合と 実践	臨床看護の実践	1	15	皆川 千年	専任	有	前期・ 後期
臨地実習	成人看護学実習Ⅰ	2	90	皆川 千年	専任	有	前期・ 後期
	成人看護学実習Ⅱ	2	90	高橋久美子	専任	有	前期・ 後期
	成人看護学実習Ⅲ	2	90	高橋 文子 長澤 心子	専任	有	前期・ 後期
	老年看護学実習Ⅰ	2	90	藤本 具子 三浦美菜子	専任	有	前期・ 後期
	老年看護学実習Ⅱ	2	90	川口菜緒美	専任	有	前期・ 後期
	小児看護学実習	2	90	薄田 悦子	専任	有	前期・ 後期
	母性看護学実習	2	90	佐々木寿美礼	専任	有	前期・ 後期
	精神看護学実習	2	90	中川まゆ子	専任	有	前期・ 後期
	在宅看護論実習	2	90	藤本 具子	専任	有	前期・ 後期
	看護の統合と実践実習	2	90	皆川 千年	専任	有	後期

カウンセラー				戸田 幸子	
--------	--	--	--	-------	--

専門分野 I

基礎看護学

目的

看護の概念を理解し、看護の役割を認識し、人間の理解と看護実践の基礎的能力を養う。

目標

1. 看護の概念(目的、対象、役割、方法)を学び、保健・医療・福祉における看護の役割を理解する。
2. 専門職業人としての態度を身につけ、倫理に基づいた行動ができる能力を習得する。
3. 医療安全に関する知識を深め、危険を予知し回避できる能力を習得する。
4. 対象の欲求を的確に理解するための基本技術を習得する。
5. フィジカルアセスメントの技術を学び対象のアセスメント方法を理解できる。
6. 対象や場に応じた看護過程を展開する能力を習得する。
7. 対象に応じた基本的欲求を満たすための援助技術を科学的根拠に基づき苦痛なく実践できる能力を習得する。
8. 安全・安楽な看護を提供するための判断力と実践力の基礎を習得する。
9. 看護問題を科学的に解決できるよう研究のプロセスおよび研究的態度を習得する。
10. 健康障害にある人を総合的に理解し、対象に応じた看護を実践することで基礎的援助の実践能力を習得する。

科目構成と学習目標

教科目	学習目標
看護学概論	1. 看護の本質、理論を学び看護の基本概念を理解する。 2. 看護の対象である人間を全人的に理解する。 3. 看護の機能と役割を学び、看護活動の概要を理解する。 4. 保健・医療・福祉における看護の役割について理解する。
看護倫理	1. 看護の倫理が意味することと、倫理規定について理解できる。 2. 看護倫理に関する基本的知識と倫理的意思決定を行うための枠組みが理解できる。 3. 看護ケアを行う状況の中で自分の価値と他者の価値を吟味し倫理的観点からその価値の意味が考察できる。
看護学援助論Ⅰ	1. 対象を理解するための基本技術を理解できる。 1) 看護における技術の考え方を理解できる。 2) 看護における記録の意義を理解できる。 3) 看護におけるコミュニケーションの意義と方法を理解できる。 4) 看護における人間関係成立のためのコミュニケーション技法を理解できる。 5) 感染予防の基礎知識が理解できる。 6) 感染予防の基本技術が習得できる。 2. 主要な症状を示す対象者への看護を理解できる。 1) 主要症状のメカニズムが理解できる。 2) 主要症状に対する看護の概要を理解できる。
看護学援助論Ⅱ	1. ヘルスアセスメントの意義と目的を理解し、必要とされる技術を習得する。 2. 全体の外観、バイタルサインの観察、計測、系統別アセスメント、心理・社会状態のアセスメントといったヘルスアセスメントの実践について理解する。 3. 身体機能のアセスメント項目の正常・異常の判別ができる。 4. ヘルスアセスメントによって得られた結果を、看護実践へとつなげる過程を理解する。
看護学援助論Ⅲ	1. 看護実践の方法としての看護過程について、一連のプロセスが理解できる。 1) 看護過程の意義について理解できる。 2) 看護過程の構成要素が理解できる。 3) 意図的、系統的な情報収集法について理解できる。 4) アセスメント(情報を査定し、看護問題の抽出)について理解できる。 5) 計画立案の具体的方法が理解できる。 6) 計画の実施・評価について理解できる。 7) 看護過程演習により、一連のプロセスが理解できる。

教 科 目	学 習 目 標
看護学援助論Ⅳ	I. 日常生活に関する基本技術を習得する。 1.) 病床環境調整の基礎知識を理解する。 2.) 病床環境のアセスメントが理解できる。 3.) 病床環境を整えるための援助技術が習得できる。 4.) 健康生活と活動・休息との関連が理解できる。 5.) 効率的で安楽な動きを作り出す技術を習得できる。 6.) 効率的で安全安楽な動きを作り出す技術を習得できる。 7.) 健康生活と清潔との関連が理解できる。 8.) 清潔状態のアセスメントが理解できる。 9.) 清潔を整えるための援助技術が習得できる。 10.) 衣生活を整えるための援助方法が理解できる。 11.) 栄養と食事の基礎知識が理解できる。 12.) 栄養と食事のアセスメントが理解できる。 13.) 栄養状態を整えるための援助技術が習得できる。 14.) 排泄に必要な基礎知識が理解できる。 15.) 排泄状態のアセスメントが理解できる。 16.) 排泄を整えるための援助技術が習得できる。
看護学援助論Ⅴ	1. 診療に関する基本技術を習得する。 1.) 呼吸・循環を正常に維持するための基礎知識が理解できる。 2.) 呼吸・循環のアセスメントが理解できる。 3.) 呼吸・循環を正常に維持するための援助技術を習得できる。 4.) 創傷の治癒に必要な基礎知識が理解できる。 5.) 創傷のアセスメントが理解できる。 6.) 創傷の治癒を促進させる援助技術を習得できる。 7.) 検査の目的・方法などの基礎知識が理解できる。 8.) 患者が安全・安楽に検査を受けるために必要な援助技術を習得する。 9.) 薬物の基礎知識が理解できる。 10.) 薬物に伴う法的責任、正しい管理方法が理解できる。 11.) 指示された薬物を安全・適切に与薬する方法が理解できる。 12.) 輸血の取り扱い方法が理解できる。 13.) 輸血時の援助方法と合併症への対処方法が理解できる。 14.) 各注射方法の基本技術が習得できる。
討議法演習	1. 看護実践の中で課題を共有し、問題解決の方向性を導き出す方法としてのカンファレンスを実践できる。 1.) 討議の意義と効果について理解できる。 2.) カンファレンスが効果的に実践できる。 3.) 看護におけるカンファレンスの意味と適切な運営方法の知識を理解できる。 4.) 問題解決のため方法を導き出すことができる。
看護研究概説Ⅰ	1. 看護研究の意義を理解し、研究活動の基本的な考え方及び研究の進め方の一連のプロセスとその方法を学び研究的態度を養う。 2. 看護職の研究への取り組みを知り、研究への意識や研究的態度を高める。
看護研究概説Ⅱ	1. 実習での学びをもとに研究計画書を作成し、卒業研究論文をまとめることができる。 2. 卒業研究論文を発表することで研究的態度を身につける。
基礎看護学実習Ⅰ	1. 健康障害にある人の療養環境および生活の現状(自立を阻害している要因を含む)を理解できる。 2. 健康障害にある人の療養生活上の欲求を理解できる。 3. 療養生活上の留意点と自立を考慮した日常生活援助の計画および実践ができる。 4. 療養生活者の反応を観察し、実践した援助行為について振り返ることができる。 5. 実践した援助行為についてまとめ、記録・報告できる。
基礎看護学実習Ⅱ	1. 健康障害にある人の看護に必要な情報を身体的・精神的・心理社会的側面から総合的にとらえることができる。 2. 健康障害にある人の情報を査定し、看護問題を抽出できる。 3. 健康障害にある人の看護問題を、優先順位にしたがい、問題解決のための計画(具体策)の立案ができる。 4. 健康障害にある人の計画(具体策)を実践し、その成果を評価・修正することができる。 5. 責任と協調性を重んじる行動がとれる。

科目名	看護研究概説Ⅱ	担当講師	薄田悦子	単位・時間数	1 単位(15 時間)	履修時期	3 年次/通年
関連科目	看護研究概説Ⅰ 臨地実習:成人看護学Ⅰ、成人看護学Ⅱ、成人看護学Ⅲ、老年看護学Ⅰ、老年看護学Ⅱ、小児看護学、母性看護学、精神看護学						
学習目標	1. 作成した研究計画書を活用し、実習での学びをもとに卒業研究論文をまとめることができる。 2. 卒業研究論文を発表することで研究的態度を身につける。						
回	学習目標	学習内容					時間
1 2 3	1. 作成した研究計画書を活用し、実習での学びをもとに、卒業研究論文をまとめることができる。	1. 卒業研究オリエンテーション 1) 研究計画書作成から発表までの日程・学習予定・内容について説明 2) 原稿構成、執筆要領について説明 3) 論文指導教員との打ち合わせ 2. 研究論文作成 1) はじめに 2) 研究方法 3) 倫理的配慮 4) 結果 5) 考察 6) 結論 7) 引用文献					6
4	2. 卒業研究論文を発表することで研究的態度を身につける。	1. 卒業研究発表オリエンテーション 2. 研究発表会の企画・運営 卒業研究企画委員との打ち合わせ					2
5 6 7 8		1. 研究発表 2. 講評 (研究テーマ・研究方法の妥当性、研究への取り組み姿勢、論文のまとめ方、発表態度)					8
合計時間数							16
講義形式 講義、実践確認							
成績評価 卒業研究論文内容、発表、研究論文提出状況							
テキスト 前田樹海他:APA に学ぶ看護系論文執筆のルール、 医学書院、2013				参考図書 小玉香津子・輪湖史子訳:看護研究計画書 日本看護協会出版会 足立はるゑ:看護研究サポートブック改定3版 メディカ出版 桂 敏 樹 :かんたん看護研究 南江堂			
履修の注意・受講条件 実習を通して卒業研究のテーマを設定し、論文をまとめる。							

秋田市医師会立秋田看護学校

専門分野Ⅱ

成人看護学

目的

成人各期の人々を総合的に理解し、各々が役割責任を持ち活動し得るための健康の維持増進・疾病予防からの回復および QOL の向上に向けて、各健康レベルにある成人やその家族を援助するための看護の理論と方法を理解する。

目標

1. 成人期にある人々の身体的、心理・社会的特徴を理解する。
2. 成人の健康に影響する因子と、健康を維持・増進するための看護の役割を理解する。
3. 成人保健の動向から、成人期の健康問題、看護の特徴を理解する。
4. 成人期における看護の役割を理解する。
5. 成人期の健康レベルに応じた看護の役割を理解する。
6. 機能障害によって生じる健康上・生活上の問題を学び、その人に応じた看護の役割を理解する。
7. 健康障害にある人の看護問題を分析し、解決方法を計画し、実践に応用できる知識・技術・態度を習得する。
8. 成人看護学援助論、成人看護学対象論、成人看護学方法論を基盤とし、看護モデル活用による看護過程を理解し、成人看護を統合した実践理論を理解し、成人看護学実習に反映させる。
9. 保健医療チームにおける看護の役割機能を認識し、連携の必要性を理解する。

科目構成と学習目標

教 科 目	学 習 目 標
成人看護学 概論	1. 社会環境と関わり合っている成人期の人々の、発達の特徴と課題、健康特性、役割機能を理解する。 2. 成人の健康に影響する諸因子を理解し、保健の必要性を理解する。 3. 成人保健の動向を知り、健康な生活を維持・増進するための看護の役割を理解する。 4. 成人期の心身・社会的成熟・適応に関する知識を深め、心身・社会的成熟・適応を促すための看護理論・方法を理解する。
成人看護学 援助論	1. 身体的・心理的に危機的状態にある人の、生命の危険に対応する看護と精神的支援を理解する。 2. 生涯にわたりセルフコントロールを必要とする人の看護を理解する。 3. 生活行動が障害された人の、生活の再構築に向けての看護を理解する。 4. 終末期にある人とその家族が質の高い生活を送れるための看護を理解する。
成人看護学 対象論 I, II	1. 呼吸機能障害、循環機能障害、栄養・代謝機能障害をもつ人とその家族への看護を理解する。 2. 内部環境調節機能障害、生体防御機能障害、排泄機能障害、性・生殖機能障害をもつ人とその家族への看護を理解する。 3. 脳・神経機能障害、運動機能障害、感覚機能障害をもつ人とその家族への看護を理解する。

教 科 目	学 習 目 標
成人看護学 方法論	1. 急性期、慢性期のそれぞれ特徴的な健康障害をもつ事例の、看護過程展開と技術演習を通し、問題解決のための思考過程と援助技術を習得する。 2. 成人看護における基礎的知識・技術、態度の統合を図って、実習へとつなげる。 3. 主体的に学習する姿勢（グループで話し合う過程から、論理的思考、発言力、聴く態度）を養う。
成人看護学 実習Ⅰ	生命の危機的状況にある成人の特性を理解し、個別性のある看護を実践できる能力を養う。
成人看護学 実習Ⅱ	生活行動に障害のある成人を理解し、個別性のある看護を実践できる能力を養う。
成人看護学 実習Ⅲ	生涯にわたりセルフコントロールが必要な成人の特性を理解し、個別性のある看護を実践できる能力を養う。

成人看護学実習

I. 実習の目的・目標

1. 成人看護学実習Ⅰ（急性期）

実習目的	生命の危機的状況にある成人の特性を理解し、個別性のある看護を実践できる能力を養う。
実習目標	1. 急性期にある人とその家族の特性が理解できる。 2. 危機状態にある人とその家族への看護が理解できる。 3. 手術療法を受ける人とその家族の特徴を理解し、状態に応じた看護が実践できる。 4. 生体機能の順調な回復を促し、回復状態に合わせた日常生活自立のための援助ができる。

2. 成人看護学実習Ⅱ（リハビリテーション期）

実習目的	生活行動に障害のある成人を理解し、個別性のある看護を実践できる能力を養う。
実習目標	1. リハビリテーションの対象となる障害を理解し、生活行動の障害の原因（病態）・状況が理解できる。 2. 障害受容に向けての援助ができる。 3. リハビリテーションプログラムを理解し、看護援助に結びつけることができる。 4. 日常生活動作および生活関連活動への自立を援助し、早期に社会復帰でき、生活の質を高めるように支援できる。

3. 成人看護学実習Ⅲ（慢性期・終末期）

実習目的	生涯にわたりセルフコントロールが必要な成人の特性を理解し、個別性のある看護を実践できる能力を養う。
実習目標	1. 健康障害が成人とその家族の生活にもたらす影響を理解できる。 2. 障害をもちながらも、生涯セルフコントロールにより、生活の質を高められるようなセルフケア教育・健康教育ができる。 3. 生活適応への援助に必要な能力を啓発し、継続看護の役割と重要性を理解できる。 4. 慢性的な経過をたどりながら徐々に変化していくなかで、今を生きていく人と家族の生活の質を高めるための援助が理解できる。 5. 終末期にある人とその家族への援助が理解できる

II. 実習の方法

1. 実習単位: 6 単位, 270 時間
2. 実習時期: 3 年次 (前期・後期)
3. 実習期間: 成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、それぞれ 2 単位 90 時間 (3 週間) を行う。
4. 実習施設: 市立秋田総合病院、秋田厚生医療センター
5. 主たる実習病棟など
 - 〈市立秋田総合病院〉
 - 7 階病棟、9 階病棟、10 階病棟、ICU、手術室、透析センター
 - 〈秋田厚生医療センター〉
 - 東 4 病棟、東 5 病棟、西 5 病棟、東 6 病棟、西 6 病棟、東 7 病棟、西 7 病棟、ICU、手術室、腎センター

6. 実習方法

- 1) 3週間を1クールとして、成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにおいて設定する健康のレベル…急性期、リハビリテーション期、慢性期・終末期の成人1名以上を受け持ち、看護過程を展開する。
- 2) 受け持ちは、実習指導者・教員で選定し、学生が決定する。
- 3) 実習配置:実習配置表参照
- 4) 実習記録:規定の実習記録用紙

1号紙:個人情報・健康に関する情報

2号紙:ゴードンの機能的健康パターンに基づくアセスメント

3号紙:統合(関連図)・看護診断リスト

4号紙:計画立案, 実施・評価

5号紙:毎日の行動計画・実践記録

6号紙:実習のまとめ

7号紙:ICU見学記録用紙

8号紙:手術見学申込書

9号紙:透析室見学記録用紙

カンファレンス

7. 見学実習 (ICU, 手術室, 透析センター、腎センター)

各見学実習においては、それぞれの健康レベルの特徴をとらえて看護の方法を理解する。

8. その他

実習事前準備として、成人期におけるあらゆる発達段階と健康問題、生活と健康問題、各健康のレベルの特性と健康レベルに応じた看護、各機能障害の特性(メカニズムと役割、アセスメント、生命・生活への影響、主な症状・検査・治療、一般的な疾患)と看護を学習して、実習に臨むこと。

Ⅲ. 実習の評価

1. 評価対象:学習内容・学習行動・看護過程、実習記録、出席状況
2. 評価者:実習指導者と教員の両者で行うが、最終評価は教員が行う。
3. 評価基準:評価表に基づき評価する。
4. 単位認定:成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの各期の実習終了後に評価し、単位認定とする。
5. 単位認定の条件:成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの実習終了後に評価し、単位認定とする。単位認定は学則に基づく。

老 年 看 護 学

目的

ライフサイクルにおける老年期の多様性を理解し、加齢と健康障害にある高齢者とその家族を支える看護を学ぶ。

目標

1. 老年期の身体的・心理的・社会的側面から特徴を理解する。
2. 高齢者を取り巻く環境を理解し、老年医療・福祉の現状と看護の役割を理解できる。
3. 老年期の健康維持・増進と日常生活行動について理解できる。
4. 加齢変化や健康障害により生活機能が低下した高齢者の看護を理解できる。
5. 高齢者と介護する家族を支える看護を理解できる。
6. 人生最終段階にある高齢者の生命と人格を尊重する態度を養う。
7. 健康を障害された高齢者とその家族の健康問題をとらえ、看護過程を展開できる。

科目構成と学習目標

教 科 目	学 習 目 標
老年看護学 概論Ⅰ	1. 加齢に伴う身体的・心理的・社会的側面から高齢者特有の健康問題について理解する。 2. 老年看護の特徴と役割を理解する。 3. 高齢者の生活機能を整える看護を理解する。
老年看護学 概論Ⅱ	1. 超高齢社会と高齢者を支える保健医療福祉システムを理解する。 2. 高齢者の権利擁護を理解する。 3. 高齢者のヘルスアセスメントを理解する。
老年看護学 対象論	1. 高齢者のアセスメント方法と特徴を理解できる。 2. 高齢者に特有な症候・疾患・障害を理解できる。 3. 認知機能障害のある高齢者を理解できる。 4. エンドオブライフケアを理解できる。 5. 高齢者を介護する家族の看護を理解できる。
老年看護学 方法論	1. 高齢者の健康障害の病態と看護を理解できる。 2. 紙上事例を用いて、健康障害のある高齢者の看護過程の展開ができる。 3. 事例に基づいた看護技術の根拠と留意点を述べることができる。
老年看護学 実習Ⅰ	1. 慢性期にある高齢者の特徴が理解できる。 2. 高齢者の個別性を尊重した看護展開ができる。 3. 高齢者と家族の支援ができる社会資源の活用方法が理解できる。 4. 高齢者と高齢者を支援する人々との関わりを通して、自己の老年観を深めることができる。
老年看護学 実習Ⅱ	1. 急性期にある高齢者の特徴が理解できる。 2. 急性期にある高齢者の個別性を尊重した看護展開ができる。 3. 高齢患者を取り巻く医療チームの役割を理解し、協働していく重要性を理解できる。 4. 高齢者と高齢者を支援する人々との関わりを通して、自己の老年観を深めることができる。

老年看護学実習

I. 実習の目的・目標

1. 老年看護学実習 I

実習目的	慢性疾患が高齢者におよぼしている影響を理解し、QOL が充実できるように看護展開ができる。
実習目標	1.慢性期にある高齢者の特徴が理解できる。 2.高齢者の個別性を尊重した看護展開ができる。 3.高齢者と家族の支援ができる社会資源の活用方法が理解できる。 4.高齢者と高齢者を支援する人々との関わりを通して、自己の老年観を深めることができる。

2. 老年看護学実習 II

実習目的	急性期にある高齢者と家族を理解し、回復状態に合わせた看護展開ができる。
実習目標	1. 急性期にある高齢者の特徴が理解できる。 2. 急性期にある高齢者の個別性を尊重した看護展開ができる。 3. 高齢患者を取り巻く医療チームの役割を理解し、協働していく重要性を理解できる。 4. 高齢者と高齢者を支援する人々との関わりを通して、自己の老年観を深めることができる。

II. 実習の方法

- 1.実習単位・実習時間:4 単位 180 時間
- 2.実習時期:3 年次(前期・後期)
- 3.実習期間:老年看護学実習 I・II 各 2 単位 90 時間を行う。
- 4.実習施設:市立秋田総合病院
- 5.主たる実習病棟:老年看護学実習 I 市立秋田総合病院 8 階 秋田厚生医療センター東 5、西5
老年看護学実習 II 市立秋田総合病院 11 階 秋田厚生医療センター東 6
- 6.実習方法
 - 1)急性期、慢性期にある高齢者 1 名以上を受け持ち、看護過程を展開する。
 - 2)受け持ちは、実習指導者・教員で選定し、学生が決定する。
 - 3)実習配置:配置表を参照
 - 4)実習記録:規定の実習記録用紙を使用

7.その他

実習事前準備として「老年看護学実習 事前学習」の冊子および一般的な疾患(メカニズム、主な症状・検査・治療、看護等)を学習して実習に臨むこと。

III. 実習の評価

- 1.評価対象:学習内容、学習行動、看護過程、実習態度、出席状況
- 2.評価者:実習指導者と教員の両者で行うが、最終評価は教員が行う。
- 3.評価基準:評価表に基づき評価する。
- 4.単位認定:老年看護学実習 I・II の各期の実習終了後に評価し単位認定とする。
- 5.単位認定:老年看護学実習 I・II の各期の実習終了後に評価し単位認定とする。単位認定は学則に基づく。

小児看護学

目的

小児が次の時代を担う大切な存在であること、周囲の影響を受けつつ日々成長・発達し続ける存在であることを理解した上で、疾病や障害を持つ小児と家族の看護のために必要な基礎的知識・技術を養う。

目標

1. 小児の特性を理解し、成長・発達の特徴と援助方法について学ぶ。
2. 家族・社会を含む小児の環境を踏まえ、小児の看護・保健・福祉について学ぶ。
3. 健康障害をもつ小児および発達段階に応じた小児の看護について理解する。
4. 健康障害をもつ小児と家族が生活・療養するための基本的知識と技術について学ぶ。
5. 心身の成長・発達過程での異常や種々の疾患を理解し、小児の特性に配慮した看護について学ぶ。
6. 小児の看護実践に必要な知識・技術について述べることができる。

科目構成と学習目標

教 科 目	学 習 目 標
小児看護学 概論	1. 小児の特性と看護の役割を理解する。 2. 小児看護を支える基本理念を理解する。 3. 小児の成長・発達の特徴を理解する。 4. 諸統計から小児・家族を取り巻く社会の変化を読み解き、小児の健康・保健・福祉について理解を深める。
小児看護学 対象論	1. 小児期の主な疾患について病態、症状、治療方法等を学ぶ。 2. 事例による看護過程展開を通して、小児のアセスメントに必要な知識・技術について述べる ことができる。(GW・発表)
小児看護学 方法論Ⅰ	1. 小児各期の特徴と健康増進のための看護を理解する。 2. 健康障害が小児・家族に及ぼす影響を理解する。 3. 小児の健康障害に伴う様々な状況と看護を理解する。
小児看護学 方法論Ⅱ	1. 小児のフィジカルアセスメントに必要な知識・技術について述べる ことができる。 2. 小児の健康障害に伴う主な症状や援助方法について説明できる。 3. 小児が受ける主な検査・処置と、その援助方法について述べる ことができる。
小児看護学 実習	小児、家族および取り巻く人々を総合的にとらえ、これまで学んだ知識・技術・態度を統合し看護を必要としている人々に看護実践できる能力を養う。

秋田市医師会立秋田看護学校

小児看護学実習

実習目的	小児、家族および取り巻く人々を総合的にとらえ、これまで学んだ知識・技術・態度を統合し看護を必要としている人々に看護実践できる能力を養う
------	---

I. 実習目標および行動目標

実習目標	行 動 目 標
1. 小児各期の特徴と正常な成長・発達を理解することができる	1. 小児の身体の発育について記述し、発育の評価ができる 2. 小児の発達段階の特徴について記述できる 3. 健康な乳幼児の日常生活習慣の確立について記述できる
2. 小児各期の成長・発達段階に応じた接し方ができる	1. 小児の日常生活行動の援助について記述できる 2. 成長・発達段階に応じた保育のあり方について述べるができる 3. 健康な乳幼児のしつけの援助について記述できる 4. 乳幼児の健全な成長発達を促すための保育環境について記述できる 5. 成長・発達段階に応じた日常生活行動の援助ができる 6. 小児の安全・安楽に配慮して実施できる
3. 健康の保持増進・疾病予防のための援助ができる	1. 小児の健康の保持増進・疾病予防のための援助について記述できる 2. 小児の成長・発達段階に合った基本的看護技術が実践できる 3. 小児の成長・発達に合った指導の実際について記述することができる 4. 小児の健康管理について記述することができる
4. 小児各期の成長・発達段階、健康レベルにあわせた看護計画を立案することができる	1. 受け持ち患児の日常生活行動から入院前後の成長・発達段階の特徴を記述できる 2. 受け持ち患児の状態に応じた目標の設定ができる 3. 受け持ち患児の成長・発達段階・健康レベルに応じた看護計画を立案することができる 4. 健康の保持増進、疾病予防、回復促進できるような看護を実践することができる 5. 小児看護の特徴的な基本的看護技術を安全・安楽に行うことができる
5. 健康障害が小児、家族および取り巻く人々に及ぼす影響を理解することができる	1. 健康障害および入院・治療が成長発達や生活状況に及ぼす影響について記述することができる 2. 健康障害および入院・治療が家族に及ぼす影響について記述することができる
6. 医療チームの一員としての役割が理解できる	1. 受け持ち患児を中心とした他職種との連携について述べるができる 2. 入院児への慰安や教育・指導を目的としたイベントを企画・実施することができる

II. 実習方法

1. 実習時期: 3年次(前期・後期)
2. 実習単位・実習時間: 2単位90時間
3. 実習施設: 市立秋田総合病院 秋田厚生医療センター 市内3か所の保育所
4. 実習配置: 配置表を参照
5. 受け持ちケースについて: 小児を1例受け持ち、看護過程を展開する
6. 規定の実習記録用紙を使用
7. 実習評価: 実習評価表に基づいて評価する
8. 評価対象: 実習要項に沿って評価する

母性看護学

目的

母性の特徴を理解し、母性各期にある人を身体的・心理的・社会的側面からとらえ、健全なライフサイクルを送るために必要な看護の基礎的知識・技術を養う。

目標

1. 女性の健康保障に必要な情報や手段を学び、歴史、法律、社会的背景と関連していることを理解する
2. 母性看護学の対象の特徴を学び、母性各期の健康の保持・増進と、健康問題の予防活動を理解する
3. 妊娠、分娩、産褥期における母性の特徴について理解する
4. 妊娠、分娩、産褥期に起こりやすい異常の病態と検査、治療について理解する
5. 妊娠、分娩、産褥期および胎児・新生児に必要な援助方法について理解する
6. 妊娠、分娩、産褥期に起こりやすい異常の看護について理解する
7. 妊娠、分娩、産褥、新生児期にある対象を理解し、母性看護援助技術が実践できる
8. 看護過程の考え方をを用い、褥婦と新生児の看護計画を立案できる

科目構成と学習目標

教科目	学 習 目 標
母性看護学概論	1. 母性看護の基盤となる概念を記述できる 2. 母性看護の対象を理解し、取り巻く社会の変遷と現状を記述できる 3. 女性のライフサイクル各期における健康と健康問題の予防について記述できる
母性看護学対象論	1. 正常な妊娠期の身体的・心理・社会的変化と特徴を記述できる 2. 妊娠中に起こりやすい異常の病態、検査、治療について理解する 3. 正常な分娩期の身体的・心理・社会的変化と特徴を説明できる 4. 分娩経過中に起こりやすい異常の病態と検査、治療について理解する 5. 正常な産褥期の身体的・心理・社会的変化と特徴を記述できる 6. 産褥期に起こりやすい異常の病態、検査、治療について記述する
母性看護学方法論Ⅰ	1. 周産期の考え方と看護の基礎を理解する 2. 正常な妊娠期の身体的・心理社会的変化と特徴、及び看護を記述できる 3. 妊婦と胎児の健康状態の判断に必要な観察点を記述できる 4. 正常な分娩期の身体的・心理社会的変化と特徴、及び看護を記述できる 5. 胎児から新生児への生理的变化、新生児の身体的特徴を記述できる 6. 新生児の健康状態の判断に必要な観察点を記述できる 7. 正常な産褥期の身体的・心理社会的変化と特徴、及び看護を記述できる 8. 産褥期の健康状態の判断に必要な観察点を記述できる

教 科 目	学 習 目 標
母性看護学方法論Ⅱ	1. 妊娠中の起こりやすい正常からの逸脱について理解し、必要な援助を記述できる 2. 分娩期にある母子の正常からの逸脱について理解し、必要な援助を記述できる 3. 産褥期にある母子の正常からの逸脱について理解し、必要な援助を記述できる 4. 新生児の正常からの逸脱について理解し、必要な援助を記述できる 5. 新生児の全身状態を観察しながら、身体計測、及び沐浴ができる 6. 褥婦と新生児の看護計画を立案できる
母性看護学実習	1. 妊産褥婦、新生児の特徴を理解し、身体的、精神的、社会的側面から健康状態を捉える。 2. 科学的根拠に基づき、妊産婦、新生児の経過に応じた看護を実践する。 3. 保健医療チームの一員としての役割を理解できる。 4. 看護実践を通して自己の母性、父性意識を発達させることができる。 5. 対象を尊重する姿勢を持ち看護師としての基本的態度を養う。

母性看護学実習

I・目的

妊娠、分娩、産褥における母性の特徴を理解し、妊産褥婦及び新生児に必要な看護と、保健指導が行える基礎能力を養う。

II・実習目標及び行動目標

実習目標	行 動 目 標
1. 妊産褥婦の特徴を理解し、身体的、精神的、社会的側面から健康状態を捉える。	1. 対象の妊娠経過を説明する 2. 対象の分娩経過を説明する 3. 対象の産褥の経過を説明する 4. 対象の新生児の健康状態を説明する 5. 家族のサポート状況を記述できる。 6. 新生児・褥婦双方からの状態をアセスメントできる。
2. 科学的根拠に基づき、褥婦、新生児の経過に応じた看護を実践する。	1. 妊娠期の観察技術を行う。 2. 妊娠期の対象に応じた保健指導を記述できる。 3. 褥婦、新生児の経過や特徴を考慮し看護目標を記述できる。 4. 褥婦、新生児が順調な経過をたどるための援助の計画ができる。 5. 産褥期の復古現象を促す援助を行う。 6. 母乳保育を促進する援助を行う。 7. 母子相互作用を促す援助を行う。 8. 新生児の観察技術を行う。 9. 新生児の日常の援助を行う。 10. 実践した結果から目標の達成度を評価できる。 11. 褥婦・新生児の安全、安楽を考慮して実施できる。
3. 保健医療チームの一員としての役割を理解できる。	1. 出産、子育てを支援するための社会資源が述べられる。 2. 出産、子育てを支援する各職種と役割が述べられる。
4. 看護実践を通して自己の母性、父性意識を発達させることができる。	1. 看護実践を通して生命誕生と出産について自己の考えを述べることができる。 2. 看護実践での体験を振り返り母性看護についての自己の考えを述べられる。
5. 対象を尊重する姿勢を持ち看護師としての基本的態度を養う。	1. 対象および家族を尊重し、対象の自己決定権を守る。 2. 対象プライバシーを守る。 3. 指導・助言を受けた内容について取り組むことができる。 6. 記録物の提出期限を守ることができる

III・実習方法

1. 実習時期：3年次（前期・後期）
2. 実習単位・実習時間：2単位90時間
3. 実習場所：市立秋田総合病院 秋田厚生医療センター
4. 実習配置：配置表を参照
5. 受け持ちケースについて：産婦または褥婦、新生児の母子を受け持ち、援助する。
6. 実習記録：規定の実習記録用紙を使用
7. 実習評価：実習評価表に基づいて評価する

精神看護学

目的 すべてのライフサイクルにある精神看護の対象を理解し、精神の健康の保持・増進および精神に障害をもつ人とその家族を援助するための基礎的能力を養う。

目標

1. 精神の健康概念とその保持・増進のための看護の基本概念を理解する。
2. 精神保健医療福祉の歴史と法制度について理解できる。
3. 精神症状と精神疾患の特徴、検査および治療方法、看護について理解する。
4. 人間関係を成立していくうえで自己活用と自分を知ることの重要性を理解し、自己洞察をする態度を養う。
5. 精神状態をアセスメントする技術について理解する。
6. 患者の人権と安全を守り、精神科看護におけるケアの方法を理解する。
7. 精神に障害をもつ人の生活の特徴と看護を理解し、それを基に必要な看護過程を展開できる。
8. 精神障害者の地域生活を支えていくための援助について理解する。

科目構成と学習目標

教 科 目	学 習 目 標
精神看護学 概論	1. 精神看護の目的と意義を理解する。 2. 精神のしくみと働きを知り、精神の健康がどのように保たれているのかを理解する。 3. 人格の発達と情緒体験のプロセスについて理解する。 4. 精神の健康が傷害されやすい状況を理解する。 5. 精神の健康を保つための予防について理解する。 6. 現代社会における家族のありようや精神障害者を身内にもつ家族が置かれている現状を知り、必要な支援を行うことの重要性を理解する。 7. 精神医療と看護の歴史的変遷とそれぞれの時代における特色を理解する。 8. 精神医療に関する法の変遷と法の改正に伴う患者の変化を理解し、現在の精神医療の問題点を考える。
精神看護学 対象論	1. 精神症状と精神疾患、医学的検査とその必要性、脳の変化と障害との関係についての基礎知識を習得する。 2. 精神医療における治療の考え方、療法の特徴と各障害への適応について理解する。 3. 状態によってもたらされる生活の変化の把握と治療、看護について理解する。
精神看護学 方法論Ⅰ	1. 患者—看護師関係成立発展について理解できる。 2. 治療的コミュニケーション技術について理解できる。 3. 自己洞察の意義を理解し、再構成が実施できる。 4. セルフケア理論を理解し、生活に焦点をあてて情報収集しアセスメントすることができる。
精神看護学 方法論Ⅱ	1. 精神科看護におけるケアの方法について理解する。 2. 医療における患者の権利や処遇をめぐる問題を理解し、精神障害者をめぐるアドボカシーの考え方を学ぶ。 3. 精神医療におけるリハビリテーションの意味とサポートシステムを理解し、現状の課題を考える。
精神看護学 実習	1. 精神に障害をもつ人の治療的環境及び生活環境としての病棟の構造と特徴について理解できる。 2. 精神に障害をもつ人の特性を理解できる。 3. 精神に障害をもつ人の生活技能獲得への援助ができる。 4. 精神に障害をもつ人との関係を築き、発展させていくことができる。 5. 対象者とのかわりを通して、自己の傾向に気づき、自己洞察できる。 6. 薬物療法、レクリエーション・作業療法、その他の療法について理解できる。 7. 精神に障害をもつ人が、地域で生活していくために必要な援助とそれを支える支援システムについて理解できる。

精神看護学実習

I. 実習目的

精神に障害をもつ人を総合的に理解し、対象者とのかかわりを通して看護者の役割を学ぶ。

II. 実習目標および行動目標

実習目標	行動目標
1. 精神に障害をもつ人の治療的環境及び生活環境としての病棟の構造と特徴について理解できる。	1. 病棟の構造や特徴について記述できる 2. 看護の役割・機能を記述できる。
2. 精神に障害をもつ人の特性を理解できる。	1. 生活背景・生育歴について理解できる。 2. 精神状態やその日常生活に及ぼす影響を記述できる。 3. 生活行動を把握し、その行動の意味を記述できる。 4. 健康的な側面を記述できる。
3. 精神に障害をもつ人の生活技能獲得への援助ができる。	1. 日常生活自立の程度を把握し、どのような援助が必要か記述できる。 2. 対象の健康な側面を助長しながら、日常生活自立に向けての援助ができる。
4. 精神に障害をもつ人との関係を築き、発展させていくことができる。	1. 対象の表情・態度・会話・行動を拒否したり、評価しないであるがまますけ入れ関係を築くことができる。 2. 訴えの少ない場合には声がけ、コミュニケーションをとり関係を発展させることができる。
5. 対象者とのかかわりを通して、自己の傾向に気づき、自己洞察できる。	1. 自分自身に生じている感情や気持ちを記述することができる。 2. 対人関係における自己の傾向に気づくことができる。
6. 薬物療法、その他の療法について理解できる。	1. 薬物療法の意義、看護の役割を記述できる。 2. 服薬が患者に与える影響を記述できる。 3. レクリエーション・作業療法に参加し、対象者の表情や態度などの変化を観察し、どのような援助が必要か記述できる。
7. 精神に障害をもつ人が、地域で生活していくために必要な援助とそれを支える支援システムについて理解できる。	1. 精神に障害をもち地域で生活している人との交流ができる。 2. 生活者としての自立に向けて支援するための社会資源について記述できる。 3. 支援する各職種と役割が述べられる。 4. 精神看護についての自分の考えを述べるができる。

III. 実習方法

1. 実習期間:3年次 前期・後期

2. 実習単位・実習時間:2単位 90時間

3. 実習場所

病棟実習	市立秋田総合病院:11 階病棟 精神科 (7日間) 秋田緑ヶ丘病院:北1病棟、北2病棟 西3病棟 西4病棟 (3日間)
精神科デイケア	秋田緑ヶ丘病院 精神科デイケア(1日)
指定障害福祉サービス事業所実習	地域生活支援事業 クローバー就労継続支援事業所 グループホーム事業 すずらん短期入所事業所(1日)

4. 実習配置:配置表を参照

5. 受け持ちケース

- 1)市立秋田総合病院:精神症状が比較的捉えやすく、日常生活に影響している患者とする。
- 2)秋田緑ヶ丘病院:レクリエーション・作業療法に参加している慢性期にある患者とする。

6. 実習記録:規定の実習記録用紙を使用

7. 実習評価:実習評価表に基づいて評価する。

8. 評価対象:実習内容および記録・レポート、実習・カンファレンスに臨む姿勢、出席状況、技術到達度など

統合分野

在宅看護論

目的

地域で療養する人々、及び障害を持ちながら生活する人々とその家族を理解し、在宅における看護活動に必要な知識・技術・態度を習得する。

目標

1. 在宅看護が必要とされる社会的背景を踏まえ、在宅看護の概念と対象・活動の場・活動の特徴など、役割と重要性を理解する。
2. 保健・医療・福祉活動の中での在宅看護の役割を理解し、関係職種との連携・チームケアの重要性を理解する。
3. 地域で生活しながら療養する人、及び障害を持ちながら生活する人とその家族への理解を深める。
4. 在宅看護活動に必要な基本的生活援助技術について理解できる。
5. 在宅療養生活を支える看護技術（医療ケア）が理解できる
6. 在宅療養における看護過程の展開を理解できる。
7. 地域の人を支える看護につながる保健活動と、様々な法律、制度、政策などを結び付け理解することができる。

科目構成と学習目標

教科目	学習目標
在宅看護概論	1. 日本の在宅看護が推進される社会的背景と在宅看護の変遷理解できる。 2. 在宅ケアにおける在宅看護の特徴・役割や機能を理解できる。 3. 在宅看護における個人・家族と集団を対象とした目的や活動の特徴を理解できる。 4. 在宅看護の基盤となる基本理念とその概要を理解できる。 5. 在宅看護の対象者の特徴について理解できる。 6. 在宅療養の成立要件を理解し、在宅療養者開始時に必要な支援について理解できる。 7. 在宅療養の場における家族の特徴について理解できる。 8. 家族に関するアセスメントを理解できる。 9. 療養者・家族双方に安全な在宅ケアを継続できるための支援について理解できる。
在宅看護環境論	1. 地域で療養する人を支える社会資源の種類や関連職種を知り、チームケアの連携について理解できる。 2. 社会資源活用における看護師の役割を理解できる。 3. 医療保険制度の概要、給付の仕みが理解できる。 4. 介護保険制度の概要が理解できる。 5. 生活保護制度の概要について理解できる。 6. ケアマネジメントの定義・概念看護師が担う必要性を理解できる。 7. 介護保険制度におけるケアマネジメントの過程を理解できる。 8. 訪問看護の目的、制度、実施機関、法的責任および訪問看護師の役割を理解できる。 9. 訪問看護における看護過程と記録の意義や留意点について理解できる。 10. 在宅看護における危機管理の原則と基本を理解できる。 11. 在宅療養の場におけるリスクの特徴と日常生活の場で発生する可能性のある事故や問題に対する予防策を理解できる。 12. 障害者を支援する制度について理解できる。 13. 対象別在宅療養者とその家族を支える制度と社会資源について理解できる。 14. 在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源が理解できる。 15. 障害者の地域での暮らしを支える制度と、実践の場での支援を理解できる。
在宅看護ケア論Ⅰ	1. 在宅療養支援で必要である、生活ケア援助技術と医療的援助技術の概要を理解できる。 2. 訪問看護の特徴と対象者について理解できる。 3. 在宅療養生活を支える基本的な技術が理解できる。 4. 日常生活を支える看護技術が理解できる。 5. 療養を支える看護技術（医療ケア）が理解できる。

在宅看護ケア論Ⅱ	1. 在宅での看取り（医療ケア）が理解できる。 2. 災害準備期への支援と多職種連携について理解できる。 3. 在宅における看護過程の特質を理解する。 4. 在宅における事例から在宅療養者とその家族に対する看護過程の展開ができる。 5. 在宅看護における看護過程のプロセスを、演習を通して理解できる。 6. 地域の人を支える看護につながる保健活動と、様々な法律、制度、政策などを結び付け理解することができる。
在宅看護論実習	1. 地域で生活しながら療養する人、及び障害を持ちながら生活する人とその家族の特性が理解できる。 2. 対象とその家族の自己決定を尊重しながら、生活を支援するための看護を実践する。 3. 地域における保健・医療・福祉活動の実際を知り、関係職種の連携と看護の役割について理解できる。 4. 在宅におけるマナー、態度を習得する。

在宅看護論実習

実習目的

地域で生活しながら療養する人、及びその家族を対象として、看護実践が行える基礎能力を養う

実習目標及び行動目標

実習目標	行 動 目 標
1. 地域で生活しながら療養する人、及び障害を持ちながら生活する人とその家族の特性が理解できる。	1. 療養者とその家族の健康状態や心身機能を記述できる。 2. 療養者とその家族の活動や参加（療養生活での希望、人生場面での関わりなど）を記述できる。 3. 療養者とその家族を取り巻く環境因子（物的、人的、社会的）を記述できる。 4. 療養者とその家族の個人因子（価値観やライフスタイルなど）を記述できる。 5. 家族や介護者による介護の状況について記述できる。
2. 対象とその家族の自己決定を尊重しながら、生活を支援するための看護を実践する。	1. 療養者と家族の状態や取り巻く状況をアセスメントできる。 2. 生活上の望みを明確にしたうえで、療養上の課題を抽出できる。 3. 療養者と家族の状況について関連図が作成できる。 4. 課題に対応した個別的な計画立案ができ、必要に応じて計画を評価修正できる。 5. 療養者・家族と共に考え、状況に合わせた援助方法を選択し、実践していくことの必要性を考察し、記述できる。 6. 療養者と家族を含めたチーム内で情報が共有されることにより、統一されたケアが行われている頃が理解できる。 7. 療養者とその家族の生活を尊重した支援の実践を記述できる。
3. 地域における保健・医療・福祉活動の実際を知り、関係職種との連携と看護の役割について理解できる。	1. 保健所および保健センターの機能と役割、活動内容を述べることができる。 2. 地域での看護活動に参加して、公衆衛生看護活動の実際を述べることができる。 3. 地域包括支援センターの役割と活動内容を述べることができる。 4. 相談や訪問、介護予防ケアマネジメントなどの実際を見学、体験し、多職種がどのように連携して活動を行っているかを考察し、述べることができる。 5. 介護保険法の概要を知り、介護サービスの仕組みについて述べることができる。 6. 介護支援専門員の役割を知り、在宅におけるケアマネジメントの実際を見学、考察し述べることができる。 7. 通所介護施設の役割と、通所介護施設における看護師の役割を述べることができる。 8. 介護保険サービスを利用している療養者への援助の実際を見学、体験し、対象、家族がサービスに期待することを考察し、述べることができる。
4. 在宅におけるマナー、態度を習得する。	1. 自己学習をして実習に臨むことができ、それぞれの施設において日々の具体的な行動目標を立てることができる。 2. 指導者に支援を求めることができ、指導の下で行動を修正できる。 3. 訪問時や実習施設において、マナーを意識した行動ができる。 4. 実習を通して、在宅看護における看護観を述べるができる。 5. 記録物の提出期限を守ることができる。

在宅看護論の実習方法

1. 実習時期：3年次（前期・後期）
2. 実習単位・実習時間：2単位90時間
3. 実習施設：実習要項参照
4. 実習配置：配置表を参照
5. 受け持ちケースについて：訪問看護ステーションにて1例を受け持ち、看護過程を展開する。
6. 規定の実習記録用紙を使用
7. 実習評価：実習評価表に基づいて評価する。
8. 評価対象：実習要項に沿って評価する。

看護の統合と実践

目的

チーム医療及び他職種との協働の中で、看護をマネジメントできる基礎能力を養う

目標

1. 看護活動に伴う危険を認知したうえで、看護ケアの質的保障における安全管理の重要性を理解しあらゆる状況下のある患者の安全を守り、事故を未然に防止するための知識を学習する。
2. 広い視野に立った保健、医療、福祉を考えられる。
3. 災害及び災害看護に関する基礎的知識を習得し、看護が果たす役割を理解する
4. 新しいヘルスケアシステムを創造し、チームや組織、システムを動かしていく活動と看護管理をとらえることができる。
5. 臨床に近い状況下で総合的な判断、対応を体験することにより、多重課題を解決する能力を習得する。
6. 既習知識・技術・態度を統合し、医療チームの一員として、看護実践する能力を養う。

科目構成と学習目標

教科目	学 習 目 標
医療安全	1. 医療における患者の安全について理解する 2. 患者を取り巻く環境の危険因子が分かる 3. 看護ケアに伴う危険性が予測される 4. リスクマネジメントについて理解する
国際看護	1. 国際社会の現状と国際看護活動について理解できる 2. 世界の人々の健康問題について学び、異文化の価値観を尊重した看護について考えることができる 3. 国際看護活動の課題について考えことができる
災害看護	1. 災害及び災害看護に関する基礎的知識を理解する 2. 災害発生時の社会の対応やしきみ、個人の備えについて理解する 3. 災害各期に送る看護師支援活動を通じ、看護が果たす役割を理解する
看護マネジメント	1. 看護マネジメントの本質と特徴を理解する 2. 看護実践の場におけるマネジメントの実際や課題を理解する 3. 看護に関連する管理諸理論や制度を理解し探求する 4. 看護の質向上に寄与する経営経済的視点から看護マネジメントを探求する
臨床看護の実践	1. 複数患者の疾患を理解し優先順位を考えた看護計画を立案し、実践できる 2. 看護実践中に起こりうる突発的事象に対して、対処方法を検討できる 3. チームメンバーと連携しながら状況に応じた看護を試みることができる 4. 積極的に演習に取り組み、自己の課題を見出せる
看護の統合と実践	1. 複数の患者を受け持ち、優先順位を考え看護援助を実践する 2. 夜間帯の実習を通して、看護の継続性を理解できる 3. 病院組織における看護管理について理解できる。 4. 療養者が安心して地域で生活するための病院の取り組みを理解できる。 5. 医療チームの一員としての役割と連携が理解し、自己の課題を明確にできる

科目名	臨床看護の実践	担当講師	皆川千年	単位・時間数	1単位(15 時間)	履修時期	3 年次/通年
関連科目	既習科目すべて						
学習目標	1. 複数の事例を理解し優先順位を考えた看護計画を立案し、グループで実践できる 2. 看護実践中に起こった突発事象に対して根拠に基づいた判断、実施、評価ができる 3. 時間管理、看護チームにおける連絡、報告、相談の重要性がわかる 4. 状況判断が必要とされる場面における自己の課題を明確にできる						
回	学習目標		学習内容				時間
1 2	1. 複数の事例を理解し優先順位を考えた看護計画が立案できる		1. 授業計画ガイダンス 2. 事例提示 3. 疾患の理解 4. 複数事例のアセスメント 5. 看護計画立案				4
3 4	2. 優先度に合わせた実践的演習を通して時間管理、看護チームにおける連絡、報告、相談の重要性がわかる		演習 1. 多重課題への対処 2. 優先度に合わせた援助計画 3. 優先度に合わせた援助内容の修正				4
5	3. 状況判断が必要とされる場面における自己の課題を明確にできる		1. グループワークを通して、看護の優先度について振り返る 2. 自己の課題を見出す				2
6 7 8	4. チームメンバーと連携しながら、看護実践中に起こった突発事象に対して根拠に基づいた判断、実施、評価ができる		演習 1. 複数の受け持ち患者に対する看護実践 2. 突発的な事象への対処 3. グループ討議を通して看護の優先度について振り返る				6
合計時間数							16
講義形式 講義、グループワーク、演習							
成績評価 出席状況、演習状況、レポート							
テキスト 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践①看護管理【医学書院】				参考図書 新体系看護学全書 統合分野 看護の統合と実践①看護実践マネジメント/医療安全【メヂカルフレンド社】			
履修の注意・受講条件 これまでの講義や実習、学習で培った力に合わせてチームで協働して働くとはどういうことを考え、対象の安全と安楽、自立を基盤に、大切にしたい看護を行動に示すことが必要です。既習科目のすべてを復習して臨んでください。 学習効果を高めるため演習を実施します。 臨地実習において活用していきますので積極的に参加しましょう。							

秋田市医師会立秋田看護学校

看護の統合と実践

I・実習目的

既習知識・技術・態度を統合し、医療チームの一員として、看護実践する能力を養う。

II・実習目標および行動目標

実習目標	行 動 目 標
1. 複数の患者を受け持ち、優先順位を考え看護援助を実践する	1. 複数患者の身体的、精神的、社会的側面から総合的に情報収集できる 2. 複数患者をアセスメントし、それぞれの関連図から看護診断を記述できる 3. 複数患者の優先順位を判断し、1日の目標の設定ができる 4. 複数患者の指示書の確認や状況から、その日の援助計画を立案できる 5. 複数患者へ安全・安楽に配慮した援助を実践できる 6. 患者の反応を確認しながら援助を実践できる 7. 複数患者へ行った援助を正確に報告・記録することができる 8. 複数患者へ行った援助を評価し、必要に応じ修正できる
2. 夜間帯の実習を通して、看護の継続性を理解できる	1. 夜間特有の患者の安全・安楽を考えた看護援助について記述できる 2. 指導者と行動を共にし、24時間の継続した看護の実践について理解できる
3. 病院組織における看護管理について理解できる。	1. 病棟管理者の役割が記述できる 2. 病棟の安全管理の視点・方法が理解できる 3. 看護部組織の中で報告・連絡・相談・調整が理解できる 4. 事故発生時の対策を理解し、患者の安全を優先した援助について記述できる
4. 療養者が安心して地域で生活するための病院の取り組みを理解できる。	1. 地域連携室の機能と実際を記述できる 2. 地域包括ケアシステムにおける病院・看護師の役割について記述できる
5. 医療チームの一員としての役割と連携が理解し、自己の課題を明確にできる	1. 指導者と共に行動し、看護チームの一員としてどのような役割をはたしているのか記述できる 2. 指導者と共に行動し、他の職種とどのように連携しているのか記述できる 3. カンファレンスの運営に積極的に参加し討議することができる 4. 自己学習をして、実習に臨むことができる 5. 相手の立場を理解し進んで協力し良い人間関係を持てる 6. 指導・助言を受けた内容について取り組むことができる 7. 相手を尊重した言葉使い、態度、身だしなみに気を付けることができる 8. 看護実践を通して自己の課題を明確にできる 9. 記録物の提出期限を守ることができる

III. 看護の統合と実践の実習方法

1. 実習時期：3年次（後期）
2. 実習単位・実習時間：2単位90時間
3. 実習場所及び実習配置：市立秋田総合病院 秋田厚生医療センター 配置表を参照
4. 受け持ちケースについて：複数の患者を同時に受け持ち、看護実践する。
5. 実習記録：規定の実習記録用紙を使用
6. 実習評価：実習評価表に基づいて評価する。
7. 評価対象：実習記録、実習態度、自己学習、出席状況